

第10回 のらくろマンガ賞
まもなく締め切りです!

- ★コマ漫画部門 テーマ「うれしい」
- ★ストーリー漫画部門 テーマは自由
- ★イラスト部門 テーマ「みんなののらくろ」

どなたでもご応募できます。詳細は館内チラシ、または財団ホームページをご確認ください。

《審査員の先生方》

永田竹丸、山根青鬼

江波じょうじ、たちのりハレコ

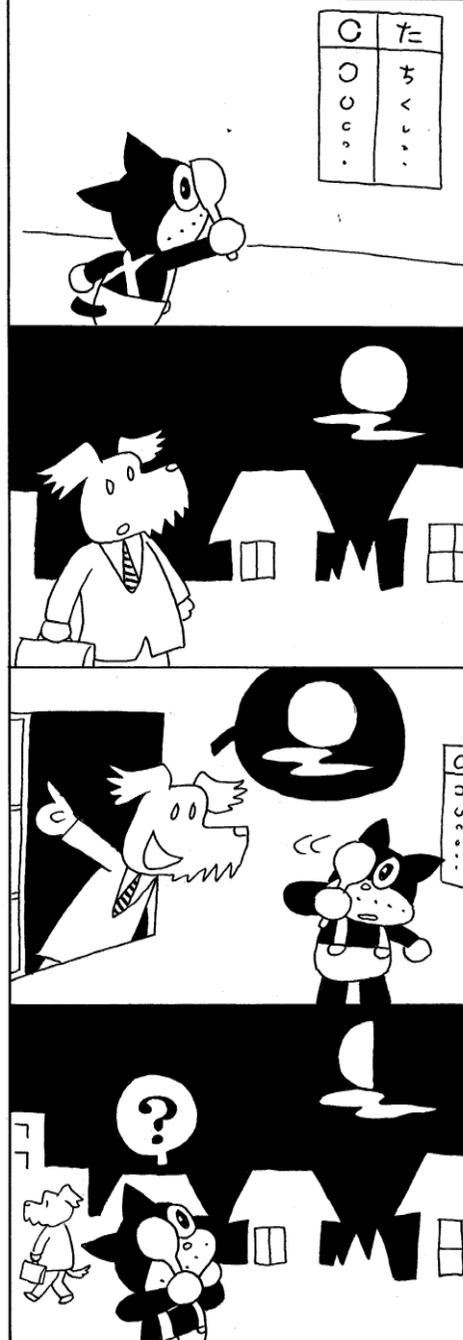
10月31日(金)
必着です!
お待ちしております。



©田河水泡 / 講談社

No.15

のらくろちゃん
(検眼中) 山根青鬼

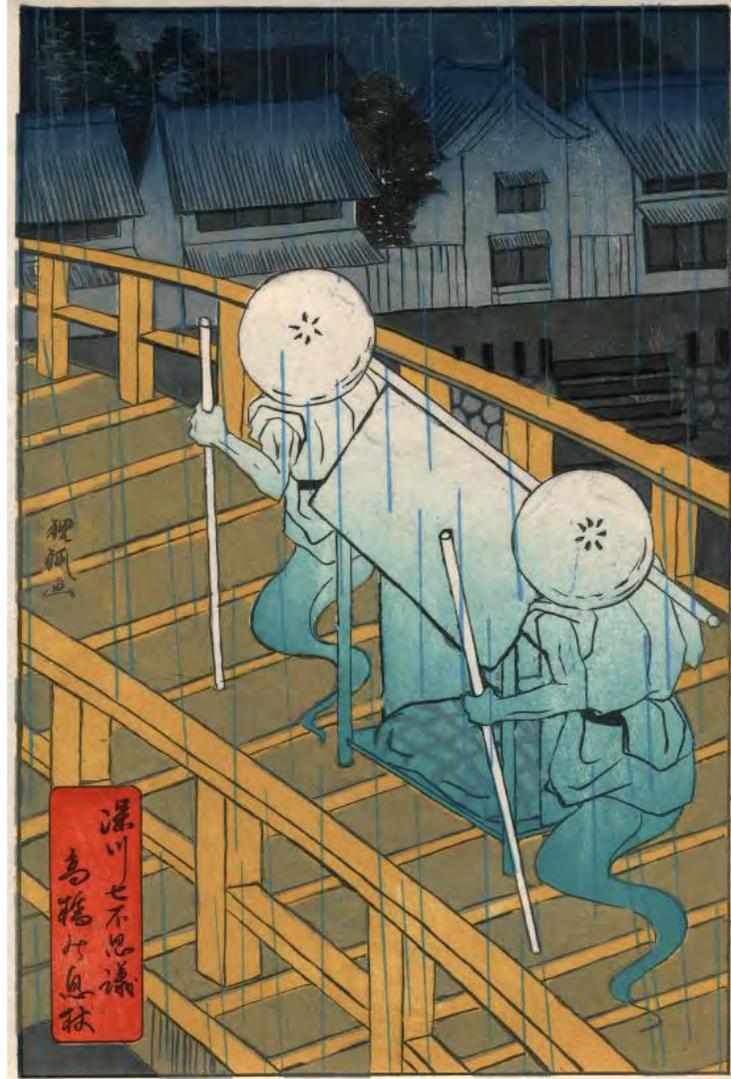


森下文化センター・イベント情報紙

第33号

のらくろ便り

14 10月号



深川七不思議
高橋の息杖

深川七不思議
高橋の息杖

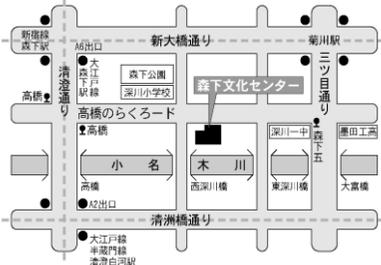
北葛飾狸狐『深川七不思議』より「高橋の息杖」

北葛飾狸狐(きたかつしかり)は、化け物・人形師・怪談・妖怪好きの深川資料館通りにあるギャラリー、深川いつぶくで「怪談」をテーマに展示会を開催するなど、異色のアーティストとして活躍中。
本名：高橋理加 アーティストとして活躍中。
http://book.geocities.jp/takari_idealstook/Takari>Welcome.html (高橋理加)
http://book.geocities.jp/kitakatushika_riko/kitakatushika_riko>Welcome.html (北葛飾狸狐)

平成26年10月15日発行

公益財団法人
江東区文化コミュニティ財団
心にうるおい、地域にぎわい。
Koto City Culture and Community Foundation

江東区森下文化センター
田河水泡・のらくろ館



〒135-0004 東京都江東区森下3-12-17

電話 03-5600-8666

FAX 03-5600-8677

H P <http://www.kcf.or.jp/morishita>

【開館時間】午前9時～午後10時

【休館日】第1・3月曜日(祝日の場合は開館)

年末年始(12/29~1/3)

建物をアートする



11月16日(日)~11月22日(土)
オーライタロー

「清澄復興建築通り」展



森下文化センターでは近隣ギャラリーとの共催展を開催しています。9月にはギャラリーコピスト、そして今回はSAKuRA GALLERYとの共催展です。

★オーライタロー★看板建築など、建物をモチーフにした作品を多く手掛けています。「清澄復興建築通り」は、旧東京市店舗向住宅を描いた、全長7mに及び大作です。

看板建築

関東大震災後、商店などに用いられた建築様式で、建築史家藤森照信氏が命名しました。前面に軒を設けず、平坦な壁状にしてモルタルや銅板で装飾を付けています。ちょうど看板の付けたような平坦な壁を利用して、自由なデザインが試みられたため、「看板建築」と名付けられました。左記の旧東京市店舗向住宅もこの看板建築に当たります。震災後の復興では、土地の区画整理が行われ、道路幅が広がられました。しかしそれは土地の供出を伴ったため、狭くなった土地の有効利用や、耐火性を向上させる目的もありました。さらに、庶民の間でも洋風デザイン志向が高まり、看板建築が多く造られるようになりました。看板建築は、現在でも東京を中心とした広い範囲で見られますが、老朽化により急速に減りつつあります。一部は、江戸東京たてももの園に移築されたり、登録有形文化財として保存されています。亀戸香取勝運商店街では、「昭和30年代」をテーマにしたレトロな看板建築の街並みを再現、ロケ地としても売出し中です。

旧東京市店舗向住宅

関東大震災後、岩崎家より深川親睦園の東半分の土地が寄付され、東京市が鉄筋コンクリート2階建ての店舗住宅を建てました。

1階店舗、2階住居で間口2間半の住宅が建設当初48戸あり、5~8戸で1棟になっていました。当初は賃貸で、当時の巡查・教師の初任給が4~50円の時代に1か月の家賃が63円、住民からの値下げ要求で32円に引き下げられたとの逸話が残っています。昭和28年に土地付きで居住者に払い下げられました。



内部は改装されていますが、外観は当時の姿を伝えていますが、細部の装飾にこだわりを感じます。

身近なところに

復

興

公

園

関東大震災後の昭和初期に建てられた小学校を「復興小学校」というのはよく知られていますが、これらの学校には、防災上の観点から隣接して公園が造られました。これが復興公園です。江東区内では、残念ながら復興小学校は現存していませんが、復興公園には当時の面影を伝える遊具などが残っているところもあります。

江東区内の復興公園

公園名	隣接小学校
元加賀公園	元加賀小学校
八名川公園	八名川小学校
森下公園	深川小学校
臨海公園	臨海小学校
東陽公園	東陽小学校
扇橋公園	扇橋小学校
川南公園	川南小学校

森下公園(昭和5年開園)



このパーゴラは改修されたものですが、当時の骨格を使用しているため、かつての面影を残しています。

元加賀公園(昭和2年開園)



水は流れていないものの、この壁泉は当初のまま残されています。重厚なデザインに復興への思いが感じられます。

森下界隈端から橋まで 高橋のおはなし

高橋は、初めて架けられた年代は不詳ながら、永代橋や新大橋よりも古く、江戸時代初期からあったとされています。江戸時代の木橋は橋脚が極端に高く、「高い橋」から「高橋」と名付けられたといわれます。江戸から昭和にかけて四度架け替えられました。

葛飾北斎の浮世絵、「たかばしのいじ」には、高橋越しに見える富士山の風景が描かれています。高橋の先に富士山が見えたとは驚きですが、この橋の高さはやはり目を惹きます。雨・雪の日には渡るのが非常に困難なほど高かったのは、小名木川を通る帆船が帆柱を完全に倒さなくても通過しやすくなるためとも、増水に備えていたためとも説明されています。

徳川家康が江戸に入ると、今の千葉県の行徳から江戸までの塩の供給ルートとして小名木川が開削され、早くから船着場が作られました。後に、近郊野菜も運ばれ、この付近は深川の物流拠点として大いに賑わいました。明治以降も蒸気船の周航に伴い、物資・旅客両面の輸送網を支えます。昭和7年には、東京汽船株式会社が高橋・行徳間を二十一銭、一時間間隔で運行していました。しかし、河川航路は鉄道・陸運に押され衰退、昭和十九年に廃止されます。現在はひっそりとしていますが、防災船着場として新たな役割を担っています。

ユングで、深川七不思議の一つ、「高橋の息杖」をご存知ですか。雨の夜に高橋を渡ると、籠籠かきを持つ息杖の「リツリツ」という音が聞こえるとか。雨の夜、ぜひ耳を澄ましてみてくだい。もっかmossy...



船着場から撮影した現在の高橋。かつてこの景色の先に富士山を望めたとは・・・隔世の感がありますね。